

事業プラン名

農業の人手不足を解決するAIと収穫ロボット -農業に投資する社会システムの共創-

農家と共同開発した収穫ロボットの普及により、農業所得を2倍以上に向上させます。現在、高齢化や人口減少に伴い、収穫パートを確保するのが難しくなっており、収穫の人手不足が大きな問題となっています。私たちは、シンプルで安価な収穫ロボットを開発・提供し、まずは20%の省力化で最適な収穫を実現することにより、収穫量と収益性を最大化させます。

私たちは、この農業課題を解決するため、AIを活用した自動収穫ロボットを開発し、農家にレンタルをします。初期導入費用は150万円（メンテナンス3年間無料）で、ロボットが収穫した農産物の売上の10%を利用手数料として農家に請求します。

【市場】

- ・日本国内の果菜類市場：約5000億円
ピーマン：500億円／きゅうり：1500億円／トマト：2300億円
- ・世界のトマト市場：55兆円

【価値】

- 収穫量を20%以上向上＝収益最大化
- 栽培施設内の環境を管理＝病気の早期発見が可能
- 利益最大化し、生産規模を2倍以上に拡大＝農業所得の向上

【競合優位性】

- 農家と共同で、徹底的に安くシンプルなロボットを早く開発（コア技術：世界で唯一の収穫ロボットの機構を国際特許申請）
- 産学官連携・オープンイノベーションで販売展開・資金調達



スマート農業を実践する農家と ロボットを共同開発できる



農業所得が向上①

労働力を確保 ▶ 収穫量20%アップ

現状：人手不足

導入：労働力確保



収穫量 **13t** / 10アール

「本当はもっと収穫できる」

収穫量 **16t** / 10アール

売上：**100万円UP**

経費：**▲60万円**

¥ **儲かる**

私たちの使命は、人類の未来のため、テクノロジーで世界の農業課題を解決することです。人手不足により、農業は収益性が低下し、担い手が減少をするという悪循環に陥っています。この課題を解決するには、農作業の中で最も人手・時間を必要とする「収穫作業」をロボットによって省力化・効率化する必要があります。将来的には、再生可能エネルギーで稼働する自動管理栽培施設を開発し、食糧提供システムを構築することで、農業に投資する持続可能な社会をつくり、世界平和に貢献します。